



武知亜耶 Takechi Aya

1989 年生まれ

愛媛県立松山工業高校卒業

日本工業大学大学院建築学専攻

博士後期課程修了 博士(工学)

著作論文: 建築家・木子七郎の設計活動と
大阪建築界における建築家の自立



花岡直樹 Hanaoka Naoki

1958 年生まれ

松山東高校・九州芸術工科大学環境設計学科卒業

2014 年 法人化 株式会社花岡直樹建築事務所

(公社)愛媛県建築士会文化財・まちづくり委員会 令和元年度まで委員長

松山市文化財保護審議会専門部会専門委員

伝統的建造物の調査、保存・修理工事、防災工事の設計・監理に従事

萬翠荘: 調査・図面作成 (H.12)、保存修理工事監理 (H.18 ~ 20)

旧管理人者保存修理、防災設備工事設計・監理 (H.27 ~ 28)

講演者 PROFILE

■萬翠荘(旧久松家別邸)本館

大正 11 / 1922

鉄筋コンクリート造、建築面積 397.76 m²、2 階建、地下 1 階、寄棟造
東南隅尖塔・西北隅附属屋付、南面車寄附属、スレート葺及び銅板葺
重文指定年月日:2011 年 11 月 29 日



解説

萬翠荘は、旧松山藩主の久松家が大正 11 年に建設したもので、松山城山の南麓に所在し、中腹に本館、平地に面した敷地南面に管理人舎を正門に隣接して建てる。萬翠荘の設計は、建築家の木子七郎が行い、木彫家の相原雲楽や洋画家の八木彩霞、装飾硝子作家の木内真太郎など、当時各分野で活躍していた芸術家の参加を得て建設された。

本館は、マンサード屋根や連続アーチのバルコニーを持つ外観から、内部の装飾まで、フランス・ルネサンス様式を基調とした意匠が用いられ、各部屋の使用方法も含めて一貫した西洋式で計画されたことで、高い統一性をもつ意匠に結実している。

萬翠荘は、本格的なフランス・ルネサンス様式の意匠をもつ様式建築であり、日本人建築家の素養を示す優れた意匠の建築作品の一つとして、高い価値が認められる。

文化庁 homepage より

■萬翠荘のステンドグラス

萬翠荘本館には、2 種類のステンドグラスが設置されている。一つは階段ホール大階段踊り場の 1 箇所 9 枚組のパネルで、縦 4,442mm× 横 3,106 のサイズである。意匠は、海の風景画として帆船とカモメ、波と雲が描かれている。

他は、各部屋の扉上部欄間ステンドグラスで主に抽象柄の中心模様である。これら全ての共通する点をまとめると以下の 3 点が挙げられる。

- 1) 上下に二分する水平ラインに縦格子。
- 2) アールヌーボー風の線にモチーフである菱模様および変形菱模様。
- 3) サロンの盛花模様と果物模様の部分を除いた対称模様。

類例として、渡部謙、木子幸三郎設計で建てられた竹田宮邸(明治 43 年)の階段踊り場ステンドグラスも木内真太郎が制作している。デザインは萬翠荘と同じく帆船とカモメである。

2 種類のステンドグラス背景を、すべて格子模様で構成し、具象模様と抽象模様を統合するなど、意匠・ガラス材料共に宮廷建築に準ずる木内真太郎の質の高いステンドグラスである。

萬翠荘調査報告書より

編集 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

発行 愛媛県教育委員会 平成 22 年 12 月 20 日

